

2018年6月4日 月 朝刊に

リウマチ膠原病センター長 吉永 泰彦 医師が掲載されました

知っておきたい最新治療

■分子標的型抗リウマチ薬
前回お話しした生物学的製剤は全て注射剤（点滴または皮下注射）で、後発品（バイオシミラー）が登場しても、いまだに高価です。生物学的製剤に劣らない有効性のある経口剤が待望され、登場したのが分子標的型抗リウマチ薬です。

俗に「飲むバイオ」と呼ぶ人もいますが、生物学的製剤ではなく「合成抗リウマチ薬」です。生産コストは生物学的製剤より安いはずですが、現時点の薬価はまだ生物学的製剤並みです。生物学的製剤と同様、炎症を起こす特定の分子を狙った「分子標的薬」です。

現在、わが国でリウマチに承認されている分子標的型抗リウマチ薬は、トファシチニブとバリシチニブの2剤があり、どちらも「JAK阻害剤」という種類の薬です（前回の表参照）。帯状疱疹などの副作用があり、両剤とも3年間の全例市販後調査中です。

■リウマチ、膠原病の患者会と医療施設間のネットワーク
日本リウマチ友の会は19



倉敷成人病センターのリウマチ教室・市民公開講座では療養生活に役立つ自助具の紹介なども行われる

⑤ 進んでいる関節リウマチの薬物療法(下)

倉敷成人病センター副院長・リウマチ膠原病センター長 吉永 泰彦

60年に発足した患者会で、全国に1万1千人、岡山県にも200人を超す会員がいます。6月10日には鳥取県米子市で同会の第58回全国大会が開催されます。日本のリウマチ診療をリードしている慶応大学リウマチ・膠原病内科の竹内勲教授が「リウマチ治療の現在・未来」と題して講演されます。

当院のリウマチ膠原病センターに所属する医師4人全員が日本リウマチ学会指導医、整形外科医5人全員が同学会専門医です。加えてリハビリ科（作業療法士6人、理学療法士9人）、薬剤師（日本リウマチ財団認定薬剤師4人）、看護師（同財団登録ケア看護師7人）、医療ソーシャルワーカーなど、多職種でチーム医療を実践していることが評価され、2009年に「日本リウマチ友の会賞」を受賞しました。

また2005年より、各種の講師による「リウマチ教室」を毎月、原則第4木曜の午後3時から約1時間、院内で開催しています。当センターホームページ（<http://www.fkmc.or.jp/medical/rheumatism>）でも案内して

OKAYAMAリウマチネットワーク

<https://sites.google.com/site/okayamaranet/>

活動目標	拠点病院	内科	整形外科
診療科の枠にとらわれず、総合的にリウマチ診療を提供する 「どこに住んでいても分け隔てなく高度なリウマチ医療を受けることができるリウマチ医療の体制づくり」を目指す 岡山県内の各地域からリウマチを専門としたリウマチ診療連携中核病院とのネットワークを強化し、地域リウマチ医療の均質化に貢献する	岡山大学病院	佐田憲映	西田圭一郎
活動内容	中核病院	リウマチ内科	整形外科
患者紹介（関節炎の診断・治療方針の相談・ホトリキサポート・生物学的製剤の導入・手術適応についての相談・手術依頼・セカンドオピニオン）、逆紹介、定期フォロー 地域連携バス、専用紹介状フォーム、患者説明文書などの作成・配布 研修会・講演会・症例検討会の開催	岡山市民病院	若林 宏	臼井正明
	岡山済生会病院	山村昌弘	清水弘毅
	川崎医科大学付属病院	守田吉孝	難波良文 (村上 弘)
	倉敷中央病院	西村啓佑	三好信也
	倉敷成人病センター	吉永泰彦	原田達三
	倉敷スイートホスピタル	高杉幸司	橋詰博行
	笠岡第一病院	(赤木貴彦)	林 充
	佐用中央病院	(守田吉孝)	山本恵剛
開業医	リウマチ内科	整形外科	
	山本整形外科医院		山本恵剛
	おさふねクリニック	中村明彦	
	矢野内科医院	矢野隆介	

よしなが・やすひこ 山口県立宇部高校、岡山大学医学部卒、岡山大学医学研究科修了。医学博士。岡山赤十字病院、尾道市立市民病院、岡山大学病院、南岡山医療センターなどを経て倉敷成人病センター勤務。2004年からリウマチ膠原病センター長、13年から副院長。岡山大学医学部医学科臨床教授。日本リウマチ学会、日本臨床リウマチ学会、日本内科学会中国地区評議員、指導医。日本腎臓学会指導医、日本透析学会専門医。日本脊髄関節炎学会理事。日本リウマチ友の会理事。ふれ愛の会顧問。

いますので、ぜひご参加ください。

岡山県内どこに住んでいても、リウマチの的確な治療が受けられることを目指して、2010年に医療施設間のネットワーク「OKAYAMAリウマチネットワーク」(<https://sites.google.com/site/okayamaranet/>)を写真右下IIができました。岡山大学病院を拠点病院とし、当院を含む中核病院8施設や開業医の先生方が参加しています。

「膠原病」は関節リウマチを含む20余りの疾患群であり、過半数は「難病」に指定されていますが、リウマチと同様、薬物療法が進んでおり、もはや「難病」とは言えないものが大部分です。「全国膠原病友の会」(<http://www.kougennong.org>)は、1971年に結成され、5千人を超す会員がいます。その岡山県支部「ふれ愛の会」(松井玉恵会長)は1987年、当時岡山大学講師だった宮脇昌二医師(現在、当院学術顧問)の指導で設立され、約1000人の患者が参加しています。

膠原病を含む難病を診療する岡山県の医療施設間のネットワークとして、「岡山県難病医療連絡協議会」(<http://okayama-nanbyo.jp>)も同左IIがあります。1999年に県によって開設され、事務局は岡山大学脳神経内科学教室に置かれ、当院を含む16の協力病院が参加しています。

世の中には医療情報があふれ、患者会や医療講演会に参加しなくても、インターネットなどで簡単に情報を入手できますが、正しい情報か否かを自分で判断するのは困難です。患者会や医療講演会に参加すれば、同じ悩みの方々と話し合い、最新の正しい情報を得ることができます。ぜひ積極的に参加されるようお勧めします。

倉敷成人病センター(☎086-422-2111)

気になる症状がある方は

リウマチ科外来 までお問い合わせください



一般財団法人
倉敷成人病センター
Kurashiki Medical Center

記事デジタル版は
こちらから

